







長崎銀屋町乃  
實金田清左衛門  
平次が家中清  
菊の娘人出立  
の圖

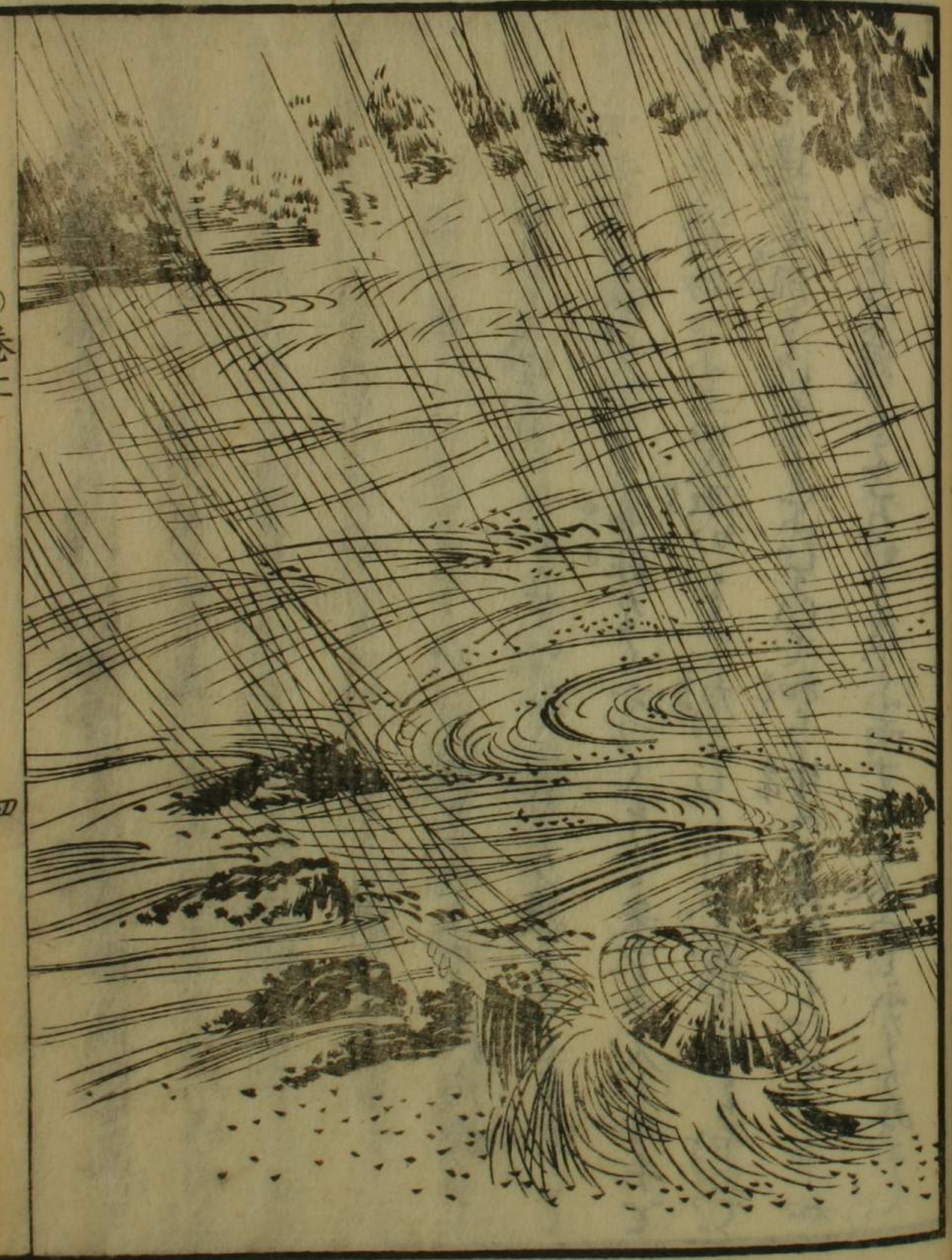


けまごぞよそののこもあるぐうねば互い涙おろしはくくす終て  
宿といづかてもと来し道と歸ふ日見峠ふまて茶屋まら  
入る長崎乃宿まら携へる酒者入饑宴とてあてられとぶ  
國よゆんその出立ハ心勇まきまねたるとぞ此所あても  
互に袖と志がらけく辰乃刺すも頃まをめてひて

旅あろもを終てハハふらまら一里もをみこりくす  
あましらねやなうくまらて出日見長等より矢上一里とて  
平松ふゆる此所と坂の棚もつて此所より栄昌まで陸と  
ゆれば三里なり然まどやてま風おろたるふらて木津藤  
棚よりよの所の浦ふゆて海上と舟ふきて大村ふ渡る木津より大村  
一里

内海ふて浪殊も穩なり未刻頃大村ふはきて長寄屋源五左衛  
門とのよ宿ふ

○廿日空陰ふ卯刻過ま立出づとぐゆれば宮小路村村のもづまふ  
郡川とく濶と十間計乃川のある依歩より渡りて又志げ行は  
松魚大村より是とよの所なり是より海岸のうをゆくふ雨篠とけく  
がめく降出て西風烈しく浪とうちあがて道ハ深田れ如くなり  
まれば雇いとりし人足共もあゆこめて今や荷物も投捨し是身  
も駕籠なうりに海ふ入ぬまらや塊もまきゆるげらなり辛う  
じて行きて海岸とほるま園木の入口ふ至ま六濶と十三間の川  
とからより渡り水勢強く殊も深くして甚危く渡りて



肥前一の川  
急流と  
波  
づ

して渡り得て園木小至ふ松魚より是身心三もに安息して酒飯をたぐ  
め人足とやひくく又出づ出口一の瀬川とふ川あり入る川乃川上  
たる此おろの霖雨水の増して殊急急流を荷持恐も恐まて渡る  
べきやうれとあまれぬとどどり河川のたゞり渡らまぬ事ありん  
やとて浅瀬やあると上つつく見渡せば上のに浅瀬や  
又えりるおあま岸岸のよりしていざや此所より渡まよと声あらく  
けて下知ななせ人足も是非なくおづくも来りて人々も手と  
りくして荷物一三四人取りて危あ危あく川入我も踏下立て  
足違へ流るれおまふひひて和ら歩めと声をとげま下下知  
しはぐらうじて渡りえりる雨すこ小やみをりぬさて

半里計行て山路小なり坂と志登る峠より半里計下ま平平野川  
あり川濶僅五六間なま水甚深辛らじてちちらりわり  
嬉野園木より是よ至ふ時雨止果りまさして立出て二里計行  
ぬる日の暮ぬ道甚あくゆきぐ記は雨まくつく降出ぬ生  
涯まく志るこやもあじとおひびりのりさふてやりくたど  
して塚寄小着嬉野より是友敏伊兵衛の宿此宿は温泉  
あり主と案内して風呂乃代へ往て浴す湯屋の中と四つは仕切  
て一乃湯坪入あり二三留湯四と侍湯と称す何もも二間四  
方計と石ふてたまあおて湯坪らく温泉津くしていはしもも  
いけまで浴しぬ後ば乃行路の辛苦をも頓ふ忘り温泉の

功能濕瘡疥瘡脚氣中風等小よりとらへり

○廿一日卯刻過小立出づ道ハ泥塗水潦田中とゆぐふり。北方塚

より長一里半 小田北方より長と経て 牛津小田より至ふ今日と終日雷

雨烈しきこふ是牛津までのもちあも言語小絶たぎり此

邊ハ先小通ゆきて往し所をどかく空ろなるもあつていふはしが

花道はなみちとゆぐむむおゆあて是より先ハ新すに道よくなりぬぐて

賀牛津より長一里 塚原佐賀より長をそぎ暮つて神崎よりとらへ

○廿二日夜前も雷雨やまぎ。今朝小つらむとむしり大雨を降ハ

かゝてハ行路もなるべもあは行先川も數多あれハ川の深さの

程もちのあま待合まぎ宿やとら乃いなまませて己刻頃までやすい

わゆる小追こくに下くだり来くる行人あり川も左計さ乃深水ふか少すくともあま

り聞定めて立出づ。一里ばりゆぐはこけ宿宿乃入い筑後肥後の方

小ゆ追分ありまき小下くだり時小ハ久留米より此所小ゆり。此宿も

茶屋多し。人家二十軒此邊道ゆきより十丁ばりゆぐは目田

原村人家三四十軒農家ははり茶屋を。又三丁ばりゆぐは

東三根郡西ハ神寄郡との郡境の枕ありまき五六丁行ハ桐

通村村中小小川のあるところよりわら農家二十軒計茶屋二

軒あり出口小も亦歩渡あゆりその小川あり川とて終ハ中島村人家十

軒むら茶屋あり二丁計ゆぐハ中魚宿なかつ人家五六十

軒茶屋なり。宿屋あり。端宿故ふまゝなげあてりたり。出口小  
 川あり。からり。小坂と登りて四五丁行。東ハ養父郡。西ハ三根  
 郡。とら境のさうあり。此あり。小松原中ノ山道なり。二丁計行ハ  
 飛越ふ。川のあり。此あり。砂地。道ゆき。十四五町行ハ  
 小川のあるを。川とす。れハ村田村。人家四十軒。茶屋多し。  
 茶屋酒屋あり。十二三町。安ろ。村人家十軒。げり茶屋多し。  
 村。潤四五間計。川あり。是も。渡。半里餘ゆけ。潤  
 三四間計の川あり。是も。渡。半里餘ゆけ。潤  
 人家百四十軒計。宿屋茶屋多し。宿。に。賤。と蓄置。宿。小鍋島侯。番所あり。往

来の人乃切手とあり。其下小川のあり。水甚深  
 し。三丁計ゆ。瓜生野村。村。五丁計立。人家  
 の数。商家酒屋あり。茶屋。十四五丁ゆ。ハ  
 五丁計。茶屋宿屋多し。驛の出口。左の。彦山  
 田代驛。對馬の殿。御領知。人家五百軒計。町  
 五丁計。茶屋宿屋多し。驛の出口。左の。彦山  
 ゆ。道。追。十丁餘行。赤坂村。農家二十軒計あり。茶屋  
 農家三四十軒あり。東の方より。入口。茶屋三軒あり。出口。小川



あり、ちりちりする。三丁行、潤四間計の川あり、歩下り渡ふ。二丁計  
ゆるゆる、こゆるゆるの川あり、二丁むらゆあ、木山村人家五六軒  
あり、車乃入口茶屋あり、商家酒屋あり、四五丁行、白坂町人家  
二三十軒、茶屋あり、是より山道と十五六丁登つ、ゆるゆる平道よかる。  
もつ、二丁計行、肥前、筑前の國境をり、それより坂を下り、けり、  
筑前、國原田驛田代、辰、ちり、小至ふ人家百軒あり、宿屋多く茶  
屋もあり、京荷宿善右衛門とのふよ宿る、そそ、神名帳、小筑前、國  
御笠郡、筑紫神社あり、そそ、此、魚田驛の神社の事なり、そそ、  
然、ま、ま、参詣、ま、り、な、れ、と、今日、八、川、と、渡、ふ、あ、と、大、小、十、六、所、大、雨、  
後、た、た、何、ま、あ、く、股、を、浸、す、な、ど、の、深、水、少、く、甚、危、う、じ、と

渡り、外、て、い、く、勞、め、も、と、八、得、參、詣、で、し、

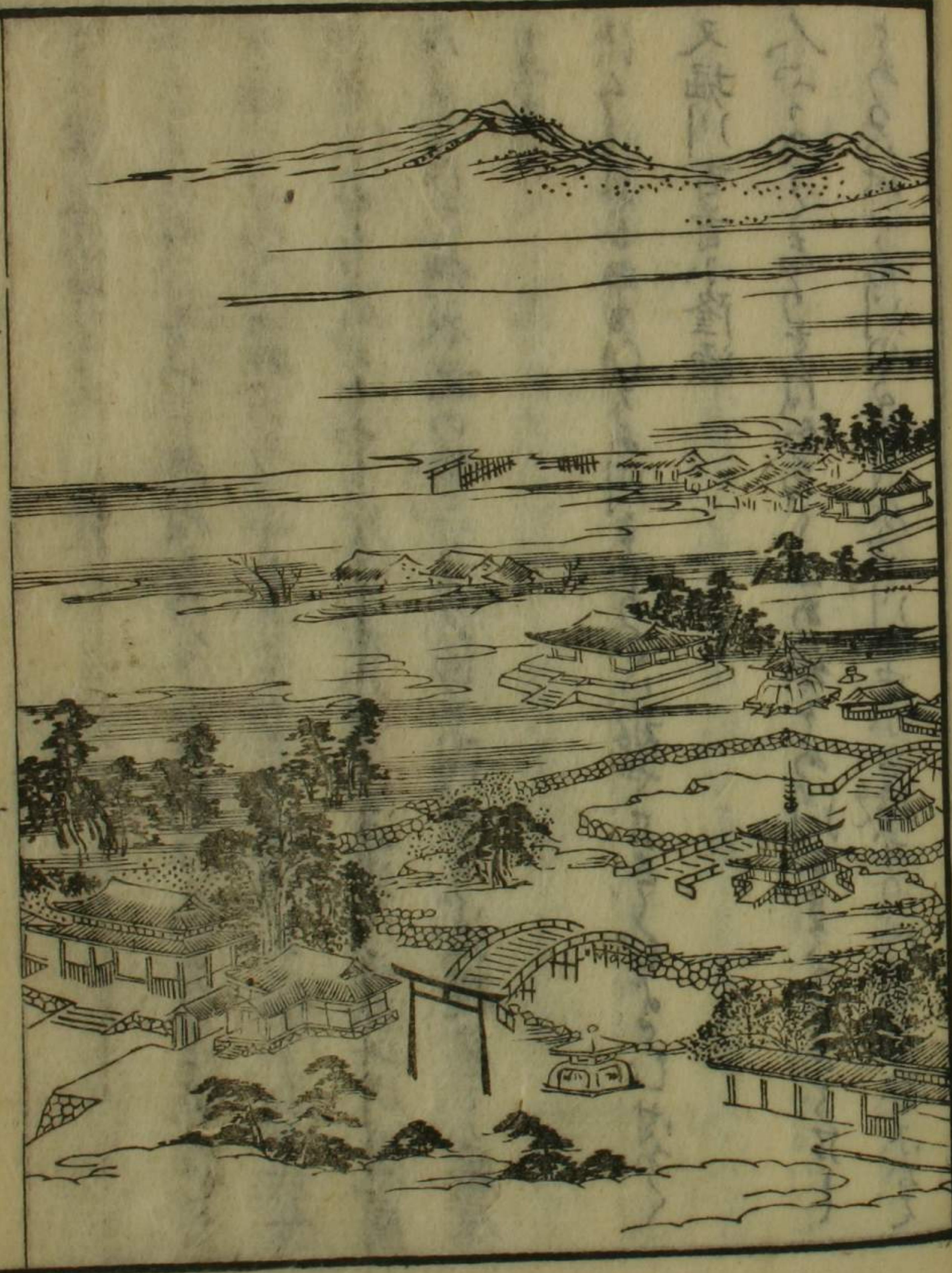
○廿三日、ら、六、太、宰、府、の、管、廟、と、拜、す、ま、ま、な、れ、ま、つ、其、方、に、向、い、頓、首、  
て、そ、そ、卯、刺、過、小、旅、宿、と、立、出、つ、頃、日、降、り、し、ま、ま、こ、り、し、霖、雨、の、と、  
ら、何、ハ、爽、ふ、晴、ら、る、ハ、い、と、快、し、

そ、こ、ろ、つ、終、る、雲、も、あ、や、散、く、け、し、ぬ、ふ、冬、も、ろ、り、神、の、  
め、く、ま、なる、い、驛、と、よ、も、も、と、て、す、く、に、ひ、バ、冷、水、越、と、ら、ふ、道、を、と、  
二、日、市、の、方、へ、ゆ、と、そ、左、ふ、ま、が、り、て、山、道、二、十、丁、げ、り、行、バ、筑、紫、村、  
人家、二、三、十、軒、あり、村、を、離、る、ま、ま、ま、ま、ら、つ、板、橋、と、ま、ま、ら、橋、錢、一、  
文、づ、出、さ、し、む、二、丁、計、行、バ、神、塚、村、人家、十、軒、計、茶、屋、あり、原、田、ら、  
此、あ、り、も、ま、ま、三、笠、郡、を、り、十、五、六、丁、行、バ、針、摺、川、から、ち、り、渡、ふ、潤

四五間もあらずし二丁計行針摺村人家三十軒計茶屋なり又二丁計ゆいば石崎村商家少しあもど茶屋なり十七八丁行二日市の驛原田より人家百軒計茶屋ありもど旅宿求めぐし二丁計ゆいばたぐら川とふ川あるとづらよりなる此川ハ哥枕名寄小よ人たひ

名ふはいやもくも刃々次湊川とすふりなる人をぬるありとあるらふ川水をあざらるる或書二日市驛の北古賀村の境内小湊川ありとあるも此所小くうらるる又二丁げりゆいば榎寺とて大宰府の天満宮は御旅所あり此所ハ菅公大宰権帥少ておかしまりて薨じゆいば所をうとや日本紀畧小延喜三年二月廿五日卒

從二位大宰権帥菅原朝臣薨於西府年五十九なりあるとわいひ出つ再拜すまていとて二丁計北の方小戒相院とふ小寺あり十丁げりゆいば大宰府小至ふ二日市より是町屋千軒なり六七丁もまらゆいば町中小銅の鳥集むらりをとりし又二丁むらゆいば一の鳥居とて大きなる石の鳥居あり鳥居乃前小下馬札をとり銅の鳥集より此鳥居より二丁あまりの間ハ茶屋宿屋のとなり大野屋とふ宿屋を休之所と定め置いて供の男小くせらる荷物とも此宿よあづあせて案内の者と来てふ詣すまよりがして一の鳥居小入まハ櫻の馬場やいして左右小櫓の木數多生あましおひたりやよみ弥生のころはいまありんとまらふの本末もあつしくまららるるがく此所小櫻とありくあけ植置



筑前太宰府天神之社圖



ふハ菅公世小あり〜時

あらしめぬ〜をわすれぬものありふれは風よいとほしてはせと  
と御し〜此歌のあるふよりてありとち橋乃本流もおと坊舎  
のまゝ〜あらしに〜や〜ゆきて右乃方小逢深川あり此川ハ花園  
山よ〜して傳衣塔の傍なごらふなれおる小川なり後撰集了藤原  
真忠

けり〜此公おもしろめ川よりおハ水や乃き〜むよむむ付おく  
又堀川百首小隆源

人ふ〜も〜ありをばあつ〜ふありをめ川も〜つ〜さ〜りし  
とあるハはとめ川のふりおん此川の中こ古墳あり此ハ菅公都小おて

しよせ〜時内洋ち〜り〜はひまひ〜女の菅公此所こ下り〜ひ〜けり  
は臨と慕そひて下り〜に覺おど〜ひ後つたりし〜悲〜し〜と〜おの川小  
とろ〜そ身みよりし〜と其所小墳うと築つて碑いと建た〜と〜云傳ふよ〜と  
今いまも猶なほ其墳つ碑いあり太良左近社傳衣塔渡唐天神花園  
た〜あり此花園ハ自然おの山やまれ中なかも麓ふもとの花壇はなだんあり〜と〜て種くさ乃のみ花木きくと  
植う並な〜れハ四季折しよきせのはな咲さゆ〜壯觀さうくわんの地ちを〜と〜と〜て此あり〜と  
池乃中島ちゅうじま小弁才天堂あり池の中ハ白蓮杜若あいらあり生あり三月乃  
末すえは〜り四月うづきは〜り五月ごは〜り杜若あいらの花盛さかゆ〜水底みづそこハ小紫ぬ  
〜り〜り六月むすつき乃末すえは〜り七月乃初あつ〜り〜り白蓮乃花  
〜り〜り池を雪ゆきとて埋うめる〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

さて浮殿の前小至る是は年毎小秋祭りの祭禮ありて九月廿三日より廿四日之夜まで神興と此殿小休め奉りて神事とて此殿の前あて終ふを此ありの諸所より設け置ける攝待所數ヶ所あり其の中小も博多の人よりあておける三疊敷小床違棚などありていと潔淨あり又鳥集二のち居より石してそより入まば大きき池あり廻り八間是はじつ法性坊といふ人心より字る形小堀らせまへといふとらうし此の中小島ありて志賀大明神の御社あり淨社の四間計り反橋くまじりとも小唐金の擬寶珠といはるる又此の中島小二重の塔あり塔内小觀世音と安置す此所小直橋あり橋柱いばも石ありと池水小岸をいひむらりにてくまじり

大きき紅鯉黒鯉うきこまづみいしとつりあておるいとありりし此あり梅の木も多しして梅園といふ又松櫻などもあまじきあり小木れ幸小參詣の人れ休所茶店などいと潔淨なるありて仁王門小入まば神馬廐歌會所御供所寶藏文庫あり此文庫小宮司檢校坊快鎮文學小志あり人のあふ衆力をくびして成就せしめ和漢入書籍と數多集めて納めおられり又聖徳太子堂一切経藏今尾宮三十三躰觀世音堂四天王堂小太郎左近社今宮たきの前と経て樓門小至る此御門小四間四尺小横二間四尺ありと石乃反橋といふ廻廊あり長さ四十九間横三間ありといふ中門六所ありかくて

御本社乃（前）小（前）よりて頓首再拜して後仰（さ）りて神（く）とて  
い（い）りや（り）く立（た）せり廣（く）き九間・奥行七間少（し）く檜皮葺（ひ）之宮内（みやうち）の柱  
小（こ）金（かね）と装（ま）り外（そと）面（づら）が赤（あ）く塗（ぬ）り抑（お）此（こ）御（ご）社（しゃ）何（なに）も（の）御（ご）代（しろ）小  
建（た）り（し）る其（そ）始（ま）め詳（つ）まひ然（さ）ま（と）此（こ）宰（さい）府（ふ）乃（は）里（り）人（に）延（えん）喜（ぎ）五年八  
月十九日安行僧都勅（ち）と蒙（ま）り御（ご）社（しゃ）の造營（ぞうえい）と始（は）め同十八年（ま）で（よ）  
改（か）め造（ぞ）事（じ）度（た）く（も）同十九年藤原仲平勅（ち）と蒙（ま）り紫宸殿と  
此宰府（さいふ）小（こ）下（げ）し御（ご）社（しゃ）と建（た）り其（そ）後（のち）延（えん）長（ちやう）元年本官（ほんくわん）小（こ）復（ふ）り（し）天（てん）満  
大自在天神（たいざいあまのじん）と稱（な）し奉（た）ふ（り）本官（ほんくわん）の事（こと）日本紀畧（にっぽんぎりやく）延（えん）長（ちやう）元年四  
月廿日甲子詔故從二位大宰權帥菅原朝臣贈本官右大臣（みぎのうぢ）あり又同  
紀小正曆四年五月廿日壬午贈故右大臣正二位菅原朝臣左大臣正一位同

年閏十月廿日甲辰重贈故正一位左大臣菅原朝臣太政大臣（たいていだいじん）  
あ（あ）と（と）バ（バ）津（津）社（しゃ）と建（た）り（し）る（も）里（り）人（に）の傳（つた）へ（の）び（び）く（く）た（た）り（し）  
然（さ）る（も）漁（い）平（へい）兵（へい）乱（らん）の（り）よ（り）兵（へい）火（か）の（り）為（な）り（し）度（た）く炎（えん）上（じやう）し衰（はい）廢（へい）小（こ）及（及）  
び（び）天（てん）正（せい）の（り）小（こ）早（そう）川（がわ）隆（りゅう）景（けい）と云（い）人（に）此（こ）筑（つく）前（まえ）の（り）國（くに）主（しゅ）と（し）と（き）  
社（しゃ）の境（さかい）内（うち）東（とう）西（せい）五（ご）十（じゅう）三（さん）間（ま）南（なん）北（ぼく）七（しち）十（じゅう）間（ま）小（こ）ま（ま）め（め）津（津）社（しゃ）と長（ちやう）九（く）間（ま）横（よこ）七（しち）  
間（ま）南（なん）面（めん）造（ぞ）營（えい）せ（し）る（も）其（そ）後（のち）墨（すみ）田（でん）長（ちやう）政（せい）侯（こう）此（こ）國（くに）の（り）君（きみ）と成（な）る（も）  
て中門迴廊（ちゅうもんくわいりやう）と造營（ぞうえい）し（し）其（そ）外（ほか）諸（しよ）堂（だう）末（ま）社（しゃ）の絶（た）り（し）と（し）繼（つぎ）廢（へい）ま（ま）  
り（し）成（な）敷（ふ）し神領（かみりやう）と寄附（よせつけ）し社僧（しゃそう）祠官（し）と厚（あ）く（く）と（し）る（も）  
し（し）る（も）古（こ）は復（ふ）り（し）と得（え）り（し）る（も）御（ご）社（しゃ）の傍（かた）  
小（こ）飛（ひ）梅（ばい）あり迴（くわい）ふ（ふ）と玉垣（たまがき）あり（し）甚（い）嚴（げん）重（じゆう）なり（し）其（そ）の梅（うめ）と飛（ひ）梅（ばい）

とく故延喜元年二月二日菅公都と出りてまき紅梅殿こうばいどのを常  
小愛こあいす梅を以て愛して

東風ふりハありひおこせと梅のこねありあけとて春ふりすれを  
と御みトまひし御歌と感かんじうの梅うめをこより遥とろくくの海山と経つらす  
神配所の内庭よとびまこりて生なりけるを若公わかくみの感あはれをあら  
めして梅よびひまひて

ふるさとの花のものをいせありまはひりてはとねとハまうその花  
と縁ゆかりトまひておめねひに幾いくばくハ梅

先久於故宅 廢離於舊年 麋鹿猶棲所 無主獨碧天  
とくが故宅こたくやいりるとありあけふよりて飛梅とびうめ乃名なを負おへりてい

傳よとく又或時旅人たびびとよこのひめれ枝とありまとのありし内庭の  
山苔やまがひの林はやし詠ふ

ふさけなく折人をりびとはらしけ宿のありしやとれぬ梅乃うめをち枝を  
やのハ山やまありと後又明應七年兵火へいけ少て此梅こゝのうめ枯かしとのありし時  
社僧しやそう祠官しやかん乃の鞞しやかんいづくこまに孤ひとりるありて

天をこりてありし梅の根ふけり地よりあつとねり印いんはぬ  
かく縁ゆかりトまひりけさバ神かみ慮しよあやふひけし再またび枝えだ系けい常じやうをてはさけ  
りてふよりて生な本もとあづふ香梅殿かうばいどのと崇あがめて末社すえ小祀こまつりを奉まつり  
たりとありし此所こゝよりや東の方あづまのほうハ八角はつかくの二重にじゆう塔たかあり徑みちの二間にま計けいも  
あるべし銅瓦どうわをて葺ふて木きハすくすく規かぎなり内うちハ唐金たうきんの香爐かうろ有ありて

和泉殿是ハ菅公六世孫定義公と祀ふところ也。寶満宮。  
高良大明神。宰相殿此殿ハ菅公四世孫輔正公と祀ふところ也。  
理趣院本尊十一面觀世音と安置す。新羅大明神。荒人堂。  
安養院本尊阿彌陀如来と安置す。貴布根大明神。若  
宮社。山王權現社。御霊大明神。人麿大明神。藤大夫  
社此社ハ藤原廣嗣と祀ふところ也。搦田大明神。西法華堂。  
此堂ハ大威徳明王と安置す。脇立ハ普賢菩薩文殊菩薩と  
安置す。東法華堂毘沙門天と安置す。此堂内少く時の太鼓  
とくろあり。大神宮。法性坊是ハ菅公の御師友たりしと  
いふ。玉尊たまのこ。尼尊あま。柳尊やなぎ此三尊ハ菅公の御子乃公達也

祀ふところ也。楓宮是ハ菅公乃北の方と祀ふところ也。北の方ハ田口氏  
少く京の吉祥院乃邊り住みしふたりて吉祥姫とせしむる。  
花園大明神と申す。此の北の方の區草をりし。福部大明神。  
兵部菅公ハ御親族田口達音と祀ふ所也。此田口氏ハ文章生少く  
乃御師範ありしところ也。老松大明神是ハ菅原の是善  
公の御弟島田忠臣と祀ふ。即菅公の御伯父君たりしところ也。  
大講堂藥師如来と安置す。此藥師佛ハ少く安樂寺の本尊  
たりしといふ。又毎年正月七日の夜饗替追儼祭等も此所少く  
行ふところ也。此御社の境内と安樂寺と少く天原山廟院  
と少く廟院と少くハ菅公を此所少く奉りし人たりし也。



かくて年中の祭事とも聞まはらう。日別神食是ハ  
正月元日より備ふ。先大なる神器。米一斗。飯と高く盛種  
種の供物。神酒。白張。着る下官。乃役夫。是とく。つじり。り  
是と調へ。鳥帽子。白張。着る下官。乃役夫。是とく。つじり。り  
今。つじり。り。毎朝。急ふ。つじり。り。月次連歌。毎月  
廿四日。社司。哥の會。所。小集會。つじり。り。鶯替。正月七日。乃夜間  
の刻頃。より。参詣。乃老若。集い。来て。木。あて。作。まる。鶯。つじり。り  
鳥の形。と調へ。相互。小袖。小隠し。鶯。かへん。と。言。つじり。り。双方。つじり。り  
替。つじり。り。追儼。是。も。正月。七日夜。つじり。り。鶯替。終。つじり。り  
後。小。薬師。堂。つじり。り。行。つじり。り。先人。を。搦。鬼面。と。被。つじり。り。松。烟。あて

是とく。つじり。り。堂の外。と引。まり。杖。あて。打。つじり。り。鬼捕。つじり。り。言。つじり。り  
事。毎年。絶。つじり。り。観。世音。寺。安樂。寺。武蔵。寺。此。三箇。寺。つじり。り  
行。つじり。り。と。二ヶ。寺。ハ。今。絶。つじり。り。つじり。り。内。宴。是。ハ。正月。廿日。  
別。當。以下。悉。く。集。つじり。り。詩。歌。管。絃。の。會。あり。つじり。り。春。祭。二。月  
廿四日。なり。あ。の。日。ハ。御。忌。日。なり。つじり。り。御。葬。送。の。遺。式。小。て。年中。の  
大。祭。なり。つじり。り。抑。ひ。の。祭。の。始。つじり。り。大。宰。帥。なり。つじり。り。人。司。つじり。り  
ま。つじり。り。の。御。代。なり。菅。氏。勅。と。蒙。つじり。り。つじり。り。社。の。別。當。つじり。り  
祭。禮。と。勤。め。られ。つじり。り。つじり。り。代。つじり。り。急。つじり。り。つじり。り  
つじり。り。曲。水。宴。三。月。三。日。なり。式。ハ。正月。の内。宴。小。同。じ。  
幸。祭。四。月。廿。日。夜。入。つじり。り。御。食。と。奉。つじり。り。後。夏。冬。の。衣。と

終るる也。此祭十月ふもまゝ一度行ひたる也。七夕宴七月  
七日別當以下皆哥會所集りて歌を詠て獻ふりたり  
へ八年ふ四度の宴行ひ終りてや中頃兵亂ふさきまじりけられ  
る。今ハ此哥の會の殘るるも有り。秋祭八月廿三日より  
廿五日まであり。此祭は堀川院の御宇康和三年中納言匡  
房卿太宰都督たりし時夢想の事ありて始て秋祭を行ひ  
其作法廿三日の暁天神輿と榎寺の御旅所ふ幸しむ。既  
小神體と宮内より出り奉りて神躰といふより齋戒しけりしころ。檢校坊勾當坊  
補佐つ神輿ふ移り奉らんとはは内内外の燈火と消して越  
殿樂と奏す。樂畢了後又燈と點じ神輿と渡御し奉り

かり。神燈凡五十。神輿の前後と照し。文人三人衣冠し馬り  
乗て先駟と童子二人烏帽子素袍と著し木少く作まる  
駒の頭と持これ七馬ふ乗て先駟又童子二人烏帽子素  
袍と著し。神の枝と持唱道ととる。先とお。次小御當と  
持て御先小立神輿ハ駕輿丁十二人けり。ちり。左右ふハ  
炬燵と照し。ハ清少で張るふハと持り者四人各神輿の上  
ふさ。さ。い。びで傘持り者御輿の御後ふけり。ちり。樂  
人等音樂と奏し。次小神馬三匹と率。次ふ五別當三綱等  
供奉す。各馬上をり。その外の社人多く扈役し奉り。ま。く  
遠近の人多く来て神輿後宮司三人ハ先達て榎寺ふ

行居て、神輿を迎へ奉りて、御旅所へ移し奉りたり。まゝ還  
来ハ當日未、刺小榎寺とて、奉りて、後より浮殿り休め  
奉りて、成刺小至りて、本宮へ還奉り。當時又燈を  
消て、音楽と奏す。樂畢て後、五別當三綱幣とて、まらば、  
かくてのち竹の舞あり。是ハいりの田樂の餘風あり。ん  
今世の猿樂のさるふ似たり。凡て此多々の儀式他の祭礼り  
異なりて、甚静小嚴重なり。残菊の宴、是ハ内宴曲水  
同ド、わしと、今ハ絶てたり。とて、まて社家僧坊の事ども、  
向ハ座主と称するハ、大鳥居延壽王院とて、僧正位あり。今住  
りハ高辻大納言殿の四弟君小あり。まらば、又小鳥居。

御供屋 執行坊、浦之坊などあり。此家ハ八十五代後堀川院  
の御時、管公九世乃孫、善昇と云一人、詔と蒙り、此宰府り  
下り、社職と勤め、後小名と信貞と改められり。其嫡子と信  
昇とらふ。是より家別きて、今小至て社務職と称す。其中  
小も此大鳥居ハ、じり別當留守職とて、代々相續ま。  
今も其巨擘なり。又満盛院、檢校坊、勾當坊ハ、管公は従い  
て、此所ふくむ。公薨逝の後、髻とまりて、香花急らふ。勤行  
まめやうたりし味酒、安行の後裔なり。此一院二坊と官司  
職とらふ。神前の宿直も、上旬ハ檢校坊、中旬ハ満盛院、下旬ハ  
勾當坊にまらる。じりより、小むるまで、昼夜片時も

息ふことあり。又上座坊。安秀院。寺主坊。いし。身と  
三綱さんかうのふと。華け臺坊。六度寺。常修坊。安祥寺。石  
築坊。明星坊。寂門坊。真寂坊。十境坊。此二寺六坊。昔  
原山は無量寺といひ。靈れい場ありし。小菅公葬祭の時。彼無  
量寺の法師ぼうしも其事小あづり。無量寺廢絶の  
後。彼法師ぼうしも此安樂寺小屬せうぞくし。天満宮の社僧しゃそうとなり。  
今是と衆徒しゆとといふ。又連歌屋れんかや。迎壽院。  
光明寺くわうみやう。宗しゆ。本願寺ほんげん。上かみ。又小野伊豫。小野加賀。小野但馬。  
此三家の小野氏と文人といふ。此外の未いまに社人僧徒三十餘家名  
綿わたとして相續あひつぎて絶たぶ。千石。首くび存

公おみより筑後國下妻郡水田村みづのに寄附よそし。寄附よそし。  
二千石。此筑前國ちくぜんの廢まりの寄附よそ。又二百五十石。筑後國久  
留米くろめ侯こうの寄附よそ。五十石。同國柳川侯やなぎがわの寄附よそ。  
是こゝに兼あ帯おび支配しはいせし。宿しゆくふ。酒飯しゆはんとて。己おの刺さや過あふ。立出たてだ五丁ごていむらう。ゆげ。觀世音寺くわんぜいおんなり。清水山普  
門院みづのと号なづす。寺の傍かたはらなる田の中。小清水こしみづとて。出でる所あり。故  
小清水の号なづある也。此寺ハ齊明天皇の御みこ為なす。天智天  
皇の御時みこのとき。小建こたをまつ。本尊如意輪觀世音ほんそんにぎわんくわんぜいおん。九尺  
座像ざざうなり。此外こゝろ。大おほきなる佛ほとけあり。其こゝハ天武天皇てんむの

御願もあり。持統天皇の御願もあり。又太宰大貳經忠の寄附  
あり。又後小松院の寄附あり。又唐鏡あり。  
又いと大きき圓鏡もあり。此外古く傳來の寶物什器あり。  
散失して、其の殘りすくなくなり。額小野道風の  
筆跡あり。此寺ハ比丘寺領もいと多く、境内も廣くして、  
僧坊八十通ありしとぞ。傳教弘法の二大師も、此寺ハ住ひしや  
なり。寺乃後小山の上小山社あり。天正五年大閤秀吉公  
薩摩より歸つし時、此小山ハ假殿を建てたり。其ハ天平勝寶  
六年、吉備公太宰大貳なりし時、始て建らしむ。其ハ天平勝寶

夫より西南小太宰府舊蹟都府樓址なり。太宰府の  
蹟ハ築山とらふ所、今も猶大きき礎多し。殘りしとぞ。都  
府樓址ハ、築山の北乃方、方々びて、東西十四間、南北六間、  
是も猶大なる礎あり。礎の上ハ柱のありし跡ハ、楕圓も丸くも  
高く丸の徑二尺一寸あり。又樓の古瓦、今も田島中ハあり。  
皆粉碎して、全ハ絶てたり。又此邊の田島  
日本紀ハ、天平十五年十二月、始置筑紫鎮西府とあり。都府樓ハ  
日本紀ハ、天智天皇六年十二月乙丑、送大山下境部連石積等、筑紫  
都督府とあり。彼御代の頃、小やそをせまひん。又此邊の田島  
ハ字ハ内裏點、紫雲殿とらふ。其ハ安徳天皇とらふ。

此所小鳳駕とよめおひりふよりその名をうるといふ。又此所より東南  
の方小湯町とよふ所ありて、其所ハじり齊明天皇上座郡朝倉の行  
宮クヤ止つとまひし時御湯治の為小行幸ありし所なりと云傳へく。  
今も温泉ありて遠近より来て浴する人数多ありといふこと  
其所ハ萬葉集ハ帥大伴卿宿次田温泉聞鶴喧作歌。  
ゆの系ふ鳴みしるハ家とく妹よとつまやときこらひあく  
とある次田の温泉ハあつぎらふお湯のちうといひ今ハ湯町也  
つらむどよりこころあるに似たり又木の丸殿の跡も此近きありに  
ありといふ新古今集ハ  
胡舎や木の丸とのふ紙とれハ名つらとくはけりハ雅より

とある木の丸殿のあとありといふ。又西南乃方一里をくり廻るてつらむと天  
拜山といふ此山ハ平地小きと一ハある山あり小き山なり。延喜二年菅  
公此山の石上小登りて罪なきとて天訴へし事ありしハ  
よりて後小其石と天拜石といひて石の上小宮と建く。天満宮と崇  
め奉りといふ。祭りハ八月廿五日なりといふ。又此所より東南より  
ありて寶満山といふいと高き大山あり。一名三笠山といふ。此山乃  
麓小大伴宗麟といひ一人の城跡もありといふ。又此所より東北  
太宰府の御社よりハ北の方小石踏川ありといふ。名寄小為頼  
字ある山といふ。今も宇美山より太宰府への道とよこまれ

なごり、小川をり、又太宰府の西北、小川ありといへり。  
今、名は、あきいよわとき流きありとぞ。びり、藤原純友公（おんまろ）は、叛  
き、四國より太宰府へ逃来（かへ）り、小野好古朝臣、勅（しつ）を蒙りて追  
まゝりし時、檜垣（ひつき）の姫（ひめ）が家ありしつらりと尋ねられりとも。此  
所ありとも。又太宰府乃町の北、高橋口とも。所、小石橋のあり  
たり。あり、それぞ、思川なるとも。此、おもひ川ぞ。逢、漆川（うるし）、石踏川（いしふみ）、  
白川の三の流き、落合とも。又、後撰集は伊勢

おもひ川（おもひ）、そとえすなかりりとも。乃、めこのささく人ありて、きえりや  
やあり。思川（し）、よもころり、代々の撰集はあま、いんえり、かくて十  
二三丁ゆげ、左の方、小國分寺村、いゆ寺と、廢衰（ふい）して、今、いん

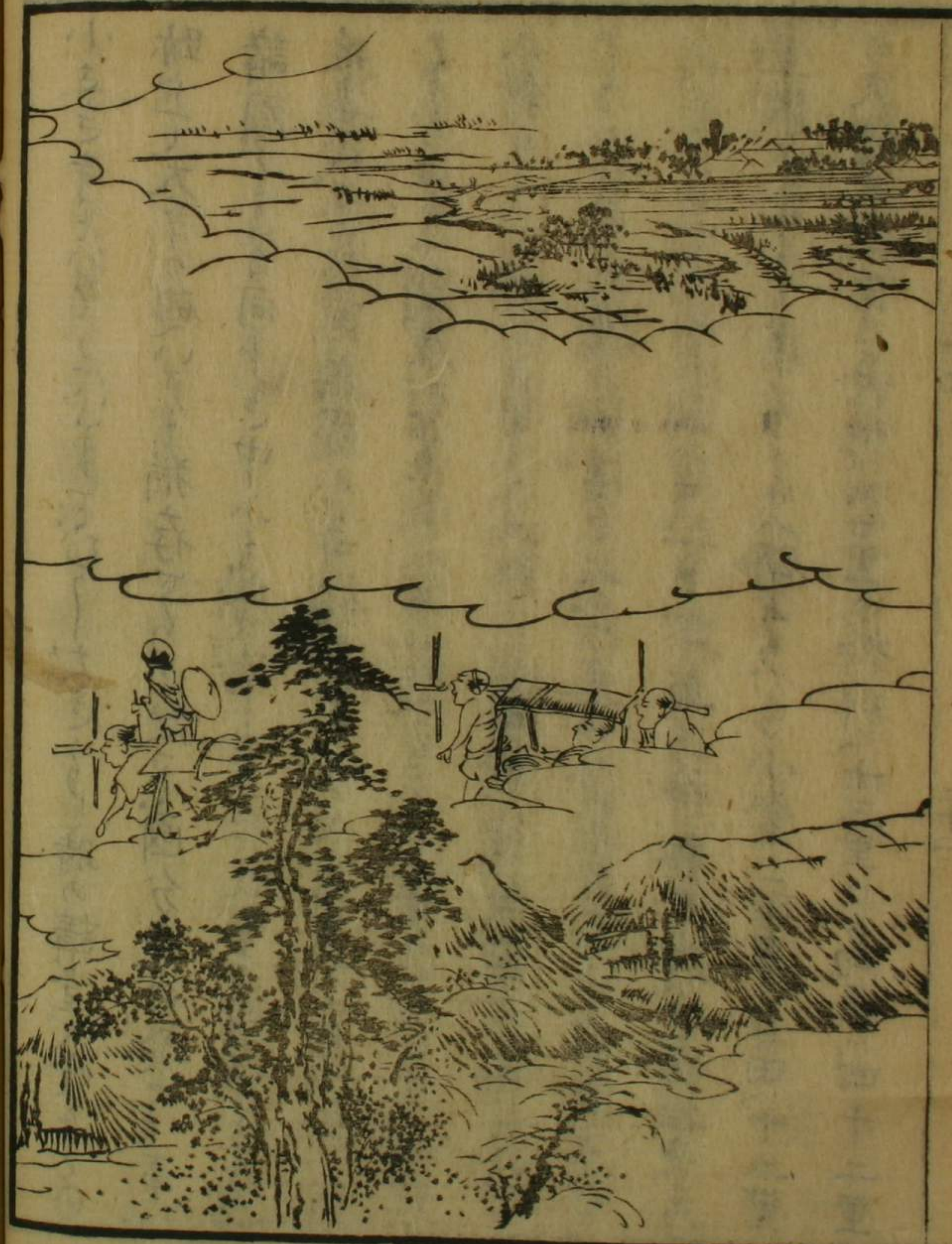
小きき寺といかりに、いんま、むじり、大（おほ）きく、りし時の講堂、大堂（おほ）を、この  
跡とて、大なる礎（い）、いんも猶存せりとも。又、國分寺の廢（ふ）せり、事ハ  
諸國とも皆同（おな）ト、き中、ふも、廢絶（ふ）して、改（か）むに、ちとぬ國（くに）ともあり。  
延喜式（えんぎしき）は、筑前國、國分寺領、三萬二百九十三束とあり。又一町  
むらりゆ、いん、関屋村、小至り、人家道（いん）、傍（かた）小、さし、出て、つらり、さし、いん、ハ  
八軒をり、これ茶屋なり。此所ハ、肥前、肥後、薩摩、其外の國、と  
より、京江戸へ通（か）ふ官道（かみち）を、いん、往來の人、れ、志（し）、き、と、東海道も  
同（おな）し、とも、又、天満宮、八百五十年の神祭、乃時、近國往來、乃  
里數（りすう）と記して、建（た）り、り、り、碑（い）あり。○小倉、二十里。日田、十二里  
○久留米、七里。長崎、四十里。○柳川、十三里。○島原、四十二里

筑前守  
関原村  
茶店乃  
風景



〇卷七

二十三





。佐賀十三里。唐津十六里。さて此里と關屋とのふちじう  
刈萱乃関のありし時、関守の居住せし所なるにありて、関屋のふち  
ありとありて、刈萱乃関のありとを、此所より廿丁より南西の方、通古  
賀村より所の道の傍乃田れ中ふありとを、じう齊明天皇百濟國  
の軍とをくひまるとて、行宮を朝倉山に建させたりし時、関を刈萱の  
里ふとをなせたりとの傳ふとありて、新古今集菅贈大政大臣  
うふや乃雲ふのそんえはるハ人ゆりさぬとありたり  
とありたり。此刈萱の實をるべし、又世俗の傳へる、じう  
筑前國刈萱の何某、高野山へ入る僧ありしを、其妻子歎き  
ふり、こころのゆきさる、妻ハ彼山のあつとの、あつとありふ里ありて

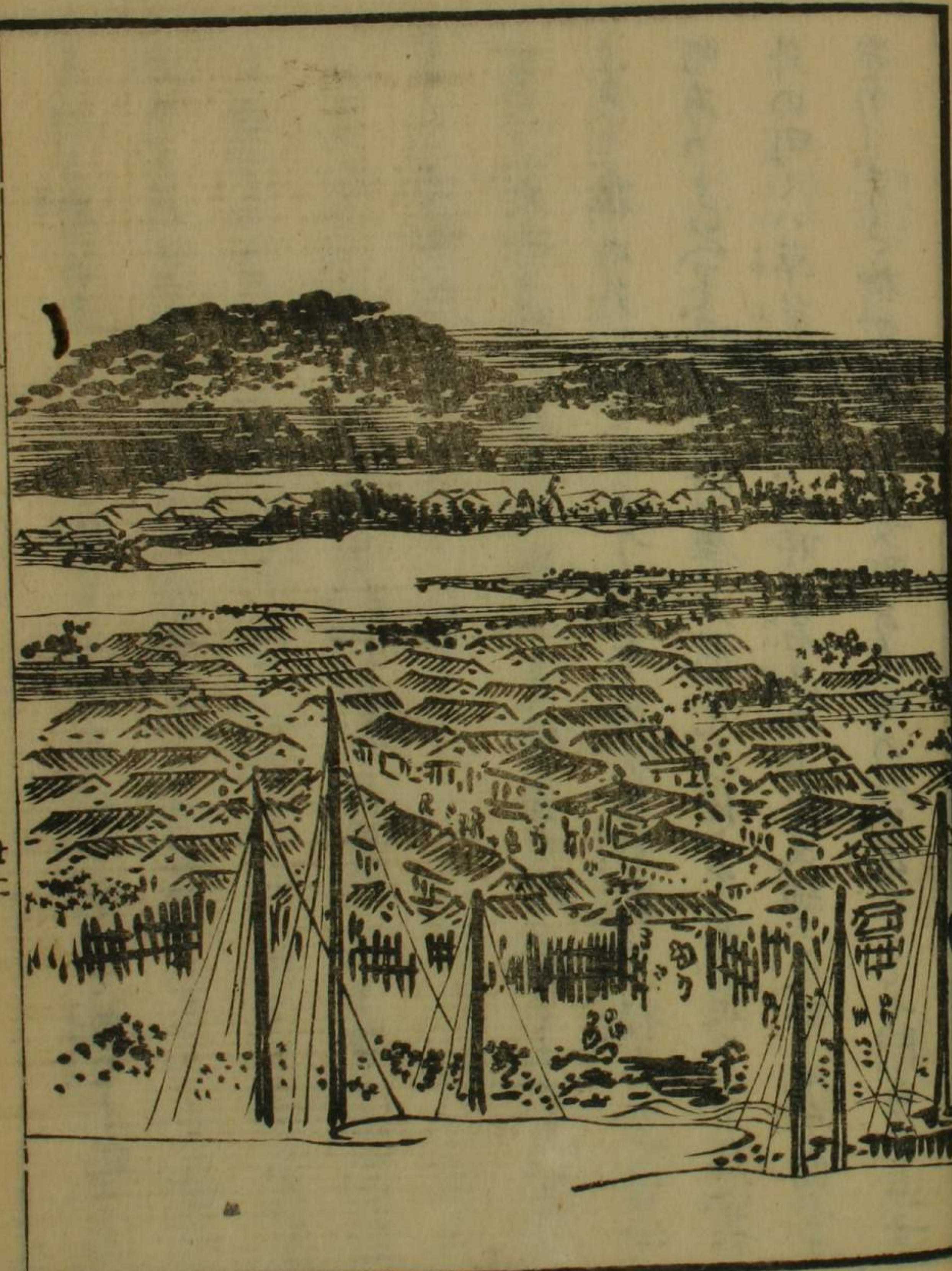
し、たりにいふと、夫の今道心乃僧吊ひて、引導せしを、刈  
萱のたに、此刈萱の里の人をりしありしとありて、かくて此村を  
すくまハ砂地あり、右左小松の並木ありて、道もいよゆきさる、ハ丁  
ゆるハ上水城村、人家三四十軒、茶屋多し、入口に衣掛天神社、  
少し小高き所あり、じう菅公此所すくあり、まゝして、太宰  
府小近に、きさる、とをきさる、りて、御装束と改めたりんやとて、此  
旅路乃所、衣脱多ひて、傍なる石ふり、あせまひ、ふりて、後小  
宮と建て、彼石を衣掛天満宮と齋まらむとあり、其石を  
今猶御社の側ふあり、まゝ此所を水城とありと、天智天皇三  
年、大さる堤と築き、まゝあり、やのありし、ふりて、水城とありと

今も彼場の跡とて、東北方八百五十六間、西乃方三百二十三間、  
根盤各廿七間あり。其東方乃道小門などの跡とむらじき大  
きある礎残とあり。水城の関といひ、此所たるべしと云傳へるや  
いふ。日本紀小、天智天皇三年於筑紫築大堤貯水名曰水城也  
あり。其たるべし。此のさへは、三丁ゆへに下水城村農家二  
十軒むら茶店もあり。又二丁むらゆけは、乃瀬川、川濶四間計  
もあるべし。板橋のかまをむら。此邊小垂道の獄門場也  
いふ。つらとむら。二丁むらゆへに河原田村あり。人家二十軒むら  
あり。茶屋あり。此里の南大城山をり。又鼓の峯ともい  
ふ。いふ。萬葉集小、大伴坂上郎女思筑紫大城山歌

今もかし大城乃小郭と鳴と。いひ人、こまをけ後とも  
とある大城山をり。まこの大城山乃南小連をり。山、大野山  
をり。とて、同集山上憶良  
大野山をり。こまをけ後ともいひ。まをけ後ともいひ。まをけ後ともいひ。  
とあり。大野村も此山のふもとあり。又三丁げりゆけは、筒  
井村人家廿軒むら茶屋あり。五六丁行は、雜餉隈といふ所は  
至ふ。人家五十軒むら茶店多くして、往来の人脚此所小休む。  
此里と雜餉隈といふ酒者の外種々の食物を商ふ家おたふ。  
よりて、おのづから、稱ふあんとあり。又此里は、那珂、御笠の兩郡。  
筒井、山田、井相田の三村小属せりとむら。此所より二丁むらと

東北乃方小御堂乃杜とて楠二株生る所あり。びり神功皇后羽白熊  
 就鳥と討まんとて宇湊の宮より松の峽の宮へ移りて御道あり。  
 御堂飄風の為よ吹とくしむいし。この杜乃木末ふかきし。いりて  
 里人の堂乃杜といひはくさるり。五六丁ゆけば麥野村人家  
 十軒あり。茶屋あり。此ありを長野系といふ。平原なる小杉系  
 あり。二十丁計ゆけば板附村の枝村とて人家三四軒あり。五丁むらり  
 ゆれば板附村の本郷なり。人家二十軒あり。此村の出口小板附川  
 あり。川濶二十間むらりあり。長さ一枚の板をいづくも續て一筋ふ  
 りけり。いりり。渡ふもいと危し。渡りしむまば茶屋あり。十五六丁  
 ゆけばりんの森村なり。人家五六軒茶屋一軒あり。十丁餘りゆけば

小え村人家四五軒あり。これ茶店なり。道乃傍小松林ありて其所  
 小山王社とてあり。是は比叡山の山王と勸請せしふりて村名も小え  
 村といふなり。此村乃傍て流る川といえ川といふも。十二三丁行ハ  
 濶二十間むらり乃川あり。濶三尺むらりの板橋とてあり。此川を板附  
 川の下流をらるといひ。さて大道より二丁むらりも隔りて堅粕村と  
 つあり。さう菅公太宰府ふれむ記ありて。此ありふ富くせは  
 いし。村民ども此事とて奉りて。明朝短冊をもちき。さうは  
 替りて。べーとのこまひふらて。里人ども皆小短冊をけりて。城も  
 持て。さかりしあり。小安武何ぐり。著るる。かて。い  
 乃年月をゆてのち。其子孫の代ふらる。宅地小社を建。歌替



筑前国  
博多郷



天神と崇め奉りて、かくて後まゝ。毎歳八月朔日を祭日と定む。何乃ころより里乃童ども、彼祭日小を哥替せんといふことあり。く事とありて、今も猶八朔小をかく云歩行ひと絶ぶといふこと。又三丁むらりゆけば、博多町小なる。太宰府より是より四里、此里乃名も物も多くと見え。まゝり、後頼朝居乃あり。

此所人の志うれ小、島小、舟出、く、博多の沖小、つらふれ、とあり。猶此外小も舟多し。さて此所の町数、堅横合せて百半町ありといふ。通筋の町屋、大形瓦が、紀少て、蔵造り、そのに、其外の町、ハ草葺多し。此所の名品として、皮細工及帯地を商ふ家あり。まゝり、柳町とて、遊女町あり。町の入口出口とも小門あり。遊女

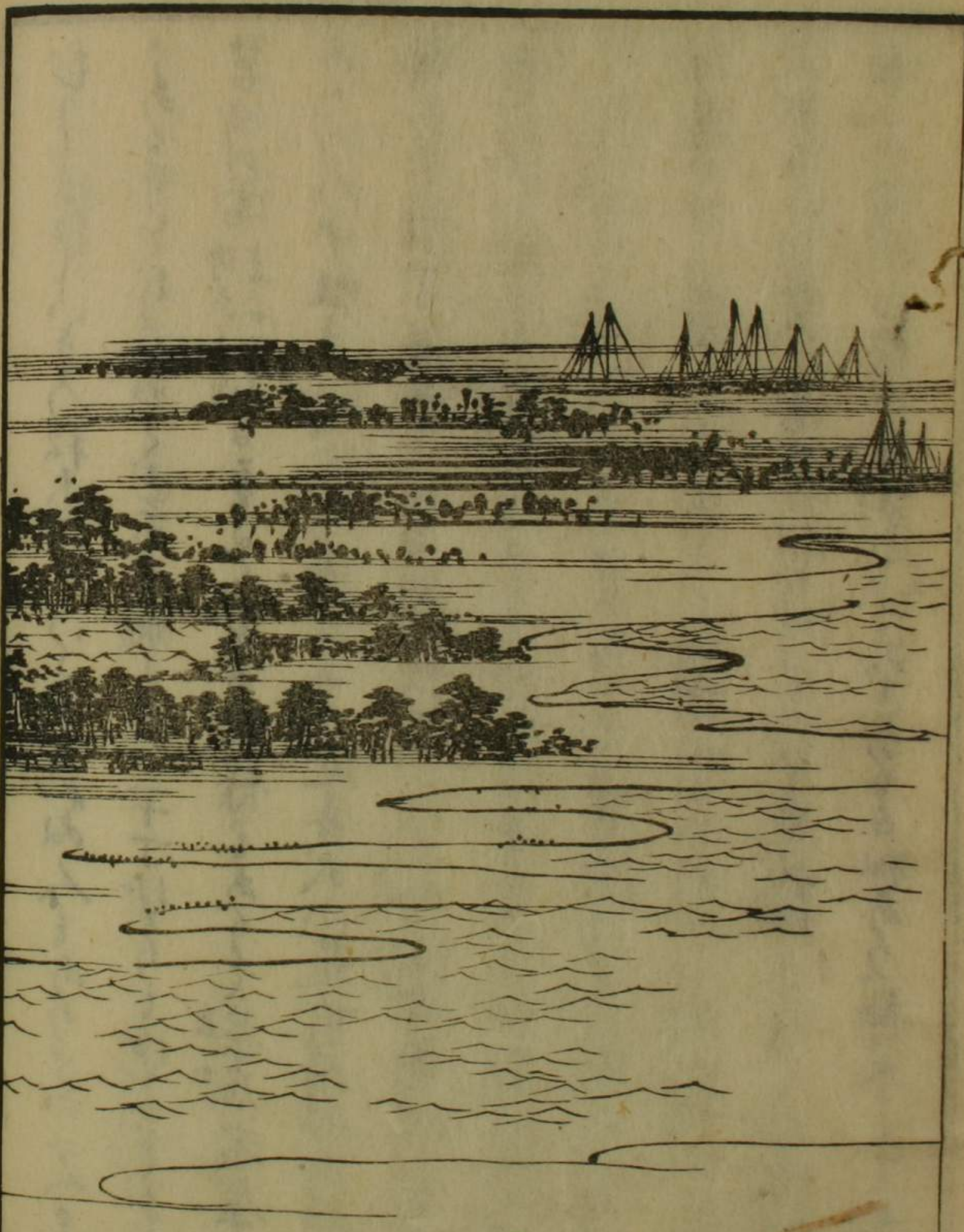
屋小、店附も、茶屋、呼屋をもあり。遊女藝子の價も、共小十五文此錢九百文、ゆく、雜費ハ其時、乃酒食の多少、小よりて、違ひあり。といふ。又遊女乃品を下の関を、ふらう、ぶと、ハや、芳、り、ゆ、後、と、藝子など、ハ大坂邊より下り、まゝり、まゝ、バ、あ、く、ま、あ、る、び、と、後、ゆ、く、是より、黒田侯の、城下、福岡、ま、で、十、丁、あ、ま、り、乃、間、町、續、ま、る、を、ゆ、く、く、町、乃、出口、乃、川、あり、橋、を、ま、ま、ま、バ、中、島、町、と、い、ふ、此、町、の、と、ろ、ま、ま、ふ、ま、り、川、あり、を、猶、橋、より、つ、ら、れ、が、城、下、の、町、屋、を、り、大、形、博、多、乃、町、小、同、ド、け、れ、ど、家、中、町、ハ、町、を、廣、く、家、造、り、も、博、多、乃、ハ、ゆ、ま、り、て、町、筋、華、好、を、り、ま、ま、り、津、城、の、景、色、よ、く、此、所、彼、所、と、見、め、ら、る、ゆ、え、申、刺、も、や、す、め、ま、ま、博、多、の、宗、且、町、藤、屋、九

助とらふ宿る宿るよむ

○廿四日卯刻過小立出づ町の端ふ川あり入海より舟どもと乗入る  
川湊をり川濶二十間むらあり橋とされば右左とも松林あり  
道の濶廣く坦平なりけりやゆけば大垣山宗福寺と云ふ禪宗  
の大寺あり福置乃殿のは菩提所なりと云ふとて此松林ハ福置乃  
殿より植置せしむと云ふいまの松もあらずとも思ふに此を  
あつりお遊びのり里乃童のいひるこゝをたゞづれと實とて  
がこゝをたゞづれといまのやうにも此所はわらうと云ふはまはれん  
りともおのり拾遺集にけりてすまはる人のまふいひけり  
なまの橋侍

じうしんいさろ松東おとてこれぬ人もありといふ  
とある所とおもひむと云ふに識しけり二十丁ばりもゆきする  
宮崎の宿博多より是まて廿五丁なる人家百軒餘ありて茶店宿屋も  
あり町の中程ハ幡宮乃御社あり延喜式小筑前國那珂郡ハ  
幡大菩薩宮寄宮とあるハ是神社なり土人ハ往古應神天皇御  
誕生の時胞衣と蔵する所あり此國の一の宮なりといふとて町乃内  
り鳥集あり是ハ二乃鳥居なり此鳥居ハいま右左小石乃  
燈籠あり立ちて此ありより御社まをて朱の玉垣あり  
又右左小未社乃小宮五六社ありまをて伏拜しけりて樓門ハ  
む此樓門の前の片方いと大きある古松あり神木とて朱の

筑前国  
那珂郡  
菅寄神  
杜之風  
景



○卷七

三十一

玉垣と廻らせり。又樓門小敵國降伏とある額あり。門小金六  
拜殿あり。是ハ東屋造なり。瓦葺なり。本社々丹  
塗あり。西方ハ廻廊なり。まご神社乃階上ハ唐金乃豹犬を置  
く。左右乃柱小を聯とあり。

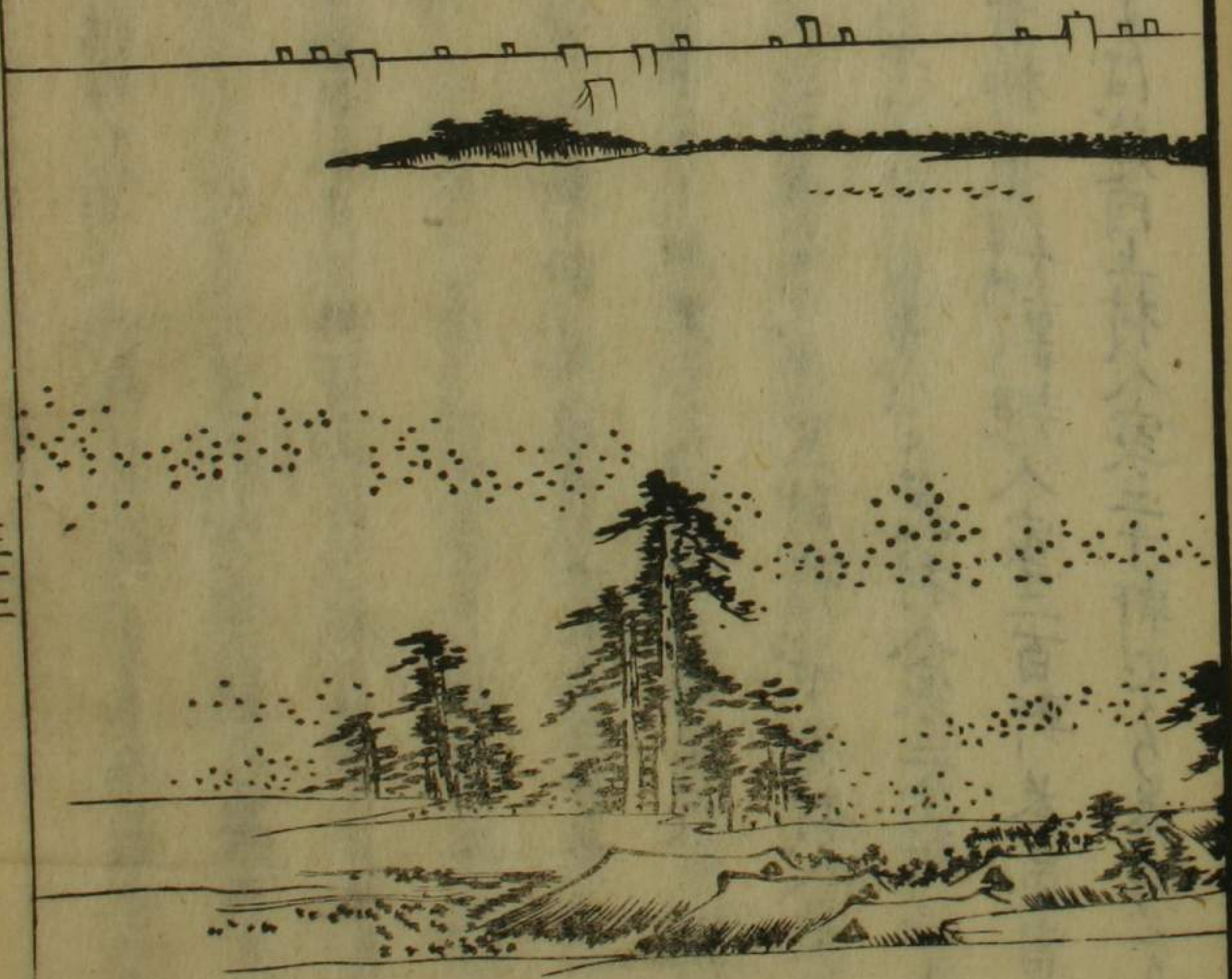
右 雖食鐵丸不受心穢人之物

左 雖坐銅焰不到心濁人之所

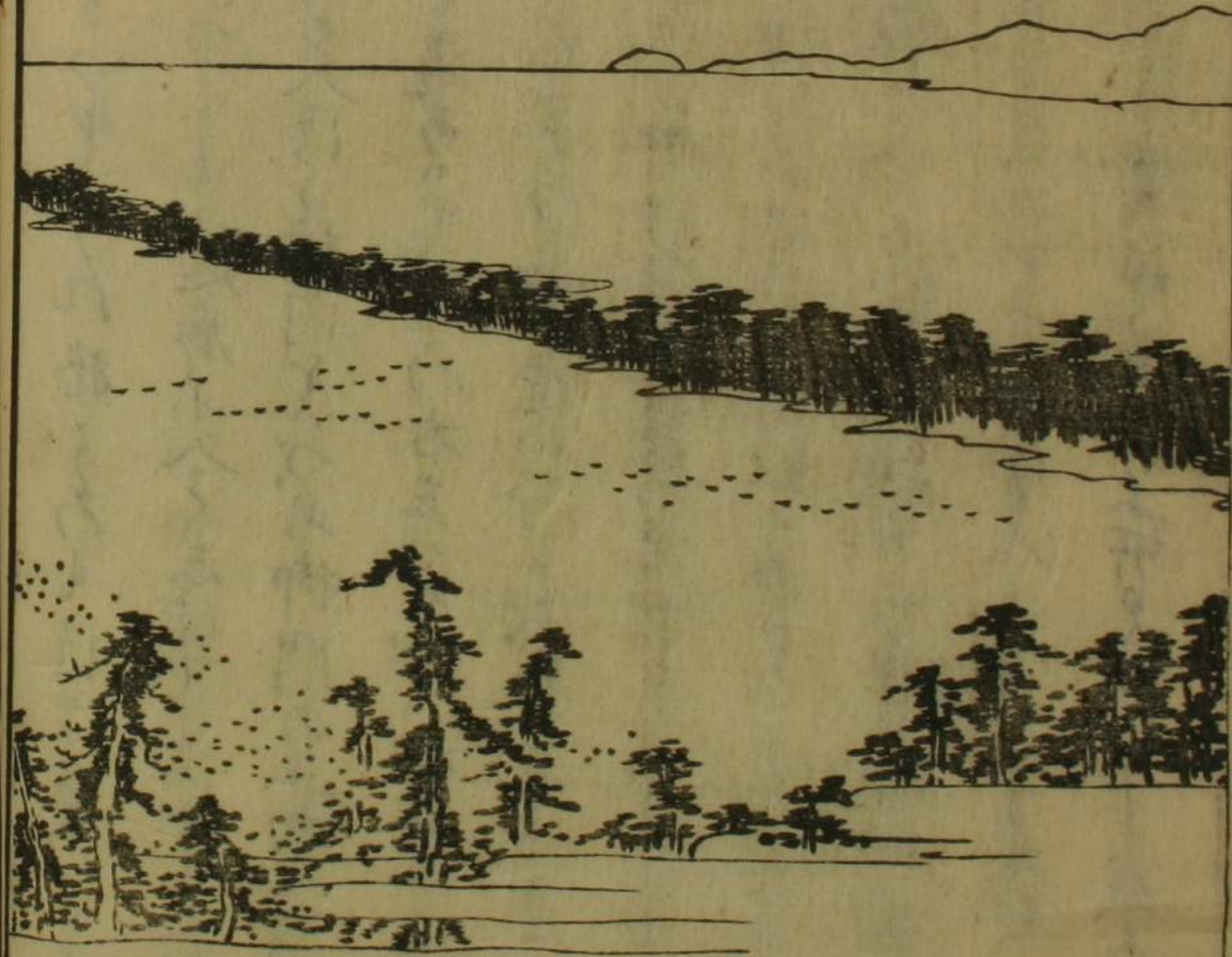
さて御前小稽首て拜し奉ふ。何となく神々として敬心を  
生じり。社乃さるる折し雨降出せし。巴隘谷ハ廻廊小立入  
く。我幾度も拜し奉る。をりつ。ぐらる雨と。いひま  
つぐ。なをり。り。し。や。ん。を。ど。い。ふ。と。き。こ。て。

ふ。あ。ぬ。も。何。う。の。や。も。ん。松。も。は。ま。子。乃。こ。も。を  
神小いの見えと。ひつとも。小廻廊小入。志げ。立や。す。ふ。不。小  
雨や。ぬ。が。て。ま。め。入。は。る。樓門と。い。づ。此御門の正面ハ濱邊迄  
いと。潔淨なる。廣き道あり。道乃。右左ハな。ぐ。て。松林なり。あ。の  
松林も。猶清潔なる。を。り。つ。濱邊小。づ。ま。バ。大。き。なる。石乃。鳥居  
ま。と。り。又。此濱小。じ。う。神功皇后三韓を討。ま。り。人。と。く。神船を  
出。し。も。此時。此濱小。捨。お。せ。ま。ひ。帆柱の石なり。と。り。石あり。實  
も。柱乃。形。して。鐵の輪と。入。り。跡あり。往古此邊ハ唐船渡海。の  
津あり。彼謡曲ハある。唐船の素慶官人。も。此津小。著。船。し。り  
し。趣。を。り。ま。り。此所より海乃中道と。り。所。見。ゆ。じ。う。或人





筑前國  
海の  
中



浪あつた汐干ろおのまろくくあちほくくうみ中ちち  
とよまれしより名附ちちとく又管崎青柳の間乃廣瀬とく  
所より十丁むろりも海中小さう出る岬あり松とまさまなく  
おい志げりも海と小浮とるやうとくさきまといとわろしりしがそ  
十丁計行バ原村人家三十軒計茶屋あり十五六丁ゆあバ大橋  
村人家三十軒計茶屋なり半里むろりゆげバ蒲生村片側町  
あて人家四十軒むろり茶屋なり半里計行バ下原村人家三  
十軒むろり茶屋あり半里計ゆあバくす村人家三十軒むろり  
茶屋なり一里行バ青柳宿昔崎より是人家二百軒茶屋宿屋  
あり廿丁むろりゆあバ是内上村人家二十軒むろり茶屋なり

村乃出口小川のありを歩ろり渡ふ今日已刻頃より大雨あちち  
風烈しく行路甚難なる小川をまろりるハ甚とろりりかいて  
半里計行ハ段の原村人家二十軒むろり茶屋なり村中小郡境の  
ちろり西ハ粕屋郡東ハ宗像郡とあり此邊より玄海灘鹿の  
島あいの島をとりゆあそ小坂を登りしりして三十丁計行バ  
畦町宿青柳より人家六七十軒茶屋あり宿を離きて少し  
坂を上ると十丁むろりゆあバ山乃口村人家十軒計茶屋あり  
是より山乃間をゆくちちをれど道あちちびとれかくて十丁  
けろりゆあバおふむ村人家三十軒計茶屋あり五六丁ゆげバ  
原町人家四十軒むろり商家打雜まろり然まこと茶屋をなり

七八丁ゆふ小川あり。土橋より渡りて二丁行ハ宮田村人家十軒計。商家あり。茶屋あり。サレ坂と上りて三十丁ゆふ小川のありと土橋より渡りて二丁計ゆふ赤間乃驛。驛。町宿あり。是より二里町家二百軒あり。茶屋宿屋あり。多ひ武右衛門といふ宿あり。

○廿五日卯刻過よ立出。半里行ハ武丸村。左乃方北山の手に人家頗ふ。又小川のあるに石橋とあり。此所小孝子正助墓と彫るる碑あり。是より漸く小瓜先上り。小半里げり行ハ吉留村人家三十軒計あり。茶屋あり。三丁計行ハ郡境の表あり。西ハ宗像郡。東ハ鞍手郡なり。十丁餘ハ行ハ水吉

村人家四十軒計茶屋あり。此邊ハ山道なるとみちりてゆきやどし。がて又瓜先上り。小五六丁行ハ一つ屋あり。又五六丁行ハこのぬ村農家十軒あり。三十丁計行ハ仁木田村人家三十軒計茶屋あり。三十丁計行ハ植木町人家十軒計。商家多く茶屋あり。町の出口小木屋瀬川と云ふ大川あり。濶ニテ餘ハ川中小中洲あり。洲のころあり。高所と云ふ船少く渡す。よりて一丁あまりゆふ木屋瀬宿。赤間より是まで三里半町家七八丁あり。宿屋茶屋多し。宿乃入口冷水越。赤間越の道乃追分あり。五六丁ゆふ小川あり。石橋よりとる。此所小郡境の表西ハ鞍手郡。東ハ遠賀郡とあり。又二十丁行ハ茶屋の原人家三十軒あり。ハ之中

茶屋ハ多シ。十四五丁行ハ濶六間たかむりれ川ある飛歩とちより多シ。向い乃岸き下石坂人家十軒計あり。サ一坂を登りゆけハ上石坂人家二十軒計茶屋多シ。十四五丁行ハ町ちやう若人家三十軒計茶屋多シ。十七八丁行ハ上野原人家二十軒計茶屋多シ。一里計行ハ黒崎驛黒崎驛木屋瀬木屋瀬より町屋十丁計茶屋宿屋多シ。半里行ハ前田村人家五六軒道傍みちのへ小あり。茶屋多シ。半里行ハ尾蔵村人家六七軒茶屋あり。二十丁計行ハ大倉村人家十軒むり茶屋あり。二丁むりゆりゆり飛渡とびわたの川あり。此川を境として東を豊前西ハ筑前なり。川の川をとりて二丁行ハ小川のあるを土橋よりむり。かくて四五丁行ハ豊前國あり。村あり。農家二十軒むり。

茶屋多シ。三十丁行ハ清水村此所小倉の入口人家三四十軒あり。此村小續つづきて小倉黒崎より是より三里。さて家中町と十丁むりゆり木戸及見付番所あり。五丁計行ハ惣門ありて番所あり。此惣門と入て五丁計行て室町二丁目さいつごり立より紙屋與作り家小宿。さて肥前より筑前豊前の所しころ小蠟ろうむせの木を数多植うを。此事其所しこ小記す。

筑紫紀行卷七終

